



東九州支部報

第104号

公益社団法人日本山岳会東九州支部
2024年1月25日(木)発行



忘年登山・杵ノ木4等三角点山頂にて(2023.12.9)

も く じ

1. 支部活動		年次晩餐会報告	12
忘年山行報告・杵ノ木	2	2. 個人投稿	
忘年会報告	3	ペンリレー 第48回	13
喜寿お祝い登山報告・清水山	3	山秋の九重を歩く	14
11月月例山行 尾鈴山	4	こぎこぎ倶楽部山行 天測点尾ある笠山	15
支部講習会・アイゼンワーク・高崎山	5	こぎこぎ倶楽部山行 舟木山から仙岩山	16
支部講習会・積雪期登山・恐羅漢山	5	古典「山岳」拾い読み (No2)	17
登山教室・一目山・ミソコブシ	6	より安全な登山のために (No52)	18
山のグレーディング調査に参加して	7	山の事故の法的責任 (No2)	19
安全登山研修会に参加して	8	八方ヶ岳カニのはさみ岩	19
宮崎ウエストン祭に参加して	9	槍ヶ岳表銀座縦走	21
JAC ユース交流会・高木山・伊木山	10	私の無名山ガイドブック (No91)	22
支部連絡会議参加報告	11	3. お知らせコーナー	
支年次晩餐会記念講演会報告	11	後記	24

忘年山行報告

杵ノ木(406.1m・4等三角点)

佐藤裕之 (16315)

12月9日(土) 天候 晴れ 穏やか

ゆず

杵ノ木登山口の屋形から中の迫とは、どのようなところか全く知らなかったが、行ってみると、日本の原風景のような地区であった。

中津市本耶馬溪町東屋形の「やかた田舎の学校」に集合し、9時出発の予定が、どこかで連絡に不具合があったようで、若干遅れて出発する。

初めは、田舎道を東に向かって40分ほど歩く。登山道入口には「奥の院・1km先」の案内板があり、さらに和気清麻呂がこの地に立ち寄った時の伝承を伝える解説板もある。和気氏がこんなところにも来ていたとは、知らなかった。

のんびり歩いて登ると、良く管理された公民館風の建物が建っており、内部も掃除が行き届いている。これが奥の院である。中の仏様は観音様のように見えるが、施錠されているため、はきとはわからない。

ここで、準備運動後、3班に分ける。ルート工作隊が4人(笠井、甲斐、井村、佐藤)、班長に阿南、櫻井、中野が指名されて、出発する。

道は、特に荒れてはいないが、分かりにくい。地形も細かな起伏が多く、複雑で地図を見てもなかなか現地が把握しづらい。結局、最後はGPSのお世話になった。

途中、岩場が2箇所あり、極端に難しいとも思えなかったが、大所帯のため、固定ロープ設置が正解であったろう。皆さん、安心して歩けたと思う。

杵ノ木4等三角点 406.1mの展望は素晴らしく、足嶽が大きく見え、八面山がドロミテの岩峰のように聳える。帰途、展望の良い別の岩峰に立ち寄るなど、短時間ながら、楽しく充実した山行となった。

下山後、星子、首藤、加藤の3氏が集合したところで、一応解散後、ほぼ全員で先の案内板にも出ていた阿羽羅堂へ向かう。これでもか、と思うほど車で登った後、急坂を数分、登り詰めると人知れずひっそりと眠っていた。

ここは、地元の人によると、昔、雨乞い祈願で、重箱持参でお参りしていたとのこと。40年位前ま



で木造観音像が安置されていたが、現在は奥の院に移されたと聞いた。その先に展望台があり、ここからの眺めも素晴らしい。また、八面山は指呼の間、すぐ頭上に聳えている。

日頃は来ることもない山域で良い1日を過ごすことができた。

なお、やかた田舎の学校は、旧屋形小学校の施設をリニューアルして農業・農村体験のできる宿泊施設としたものである。

行動時間 約4時間20分 距離約6km 標高差約340m

参加者…安東、下川、阿南、中野(稔)、櫻井、今川、佐藤(裕)、境、深草、笠井、甲斐、後藤、飯田(修)、清水(道)、清水(久)、松浦、古谷(耕)、古谷(あ)、榎園、青木、佐藤(美)、井村、三重野、土谷(24名)
(いずれも阿羽羅堂含まず。)

支部忘年会報告

やかた田舎の学校にて

下川 智子 (14505)

12月9日(土)、中津の八面山南東に位置する杵ノ木山に会員会友22名が、忘年登山で登った。3時下山後、今夜の宿泊場所である「やかた田舎の学校」に入る。ここは廃校になった小学校を宿泊施設に改修したもので、校庭や体育館など懐かしい雰囲気漂っている。校舎に入ると二階へ続く階段は創立当時のものということで、こんな階段あったなあと思いを思い出す。

部屋は教室を畳の部屋に改装している。男性7名女性6名が2部屋に分かれる。1階奥に炭酸泉の温泉のお風呂が男女別があり、夕食前に汗を流す。今年の忘年会参加者は16名と例年に比べ少なくちょっと寂しい。

食堂で6時から忘年会が始まる。阿南事務局長の開会の挨拶のあと、安東支部長が挨拶。今年も無事終わったことの感謝と、来年も安全に楽しく皆で山



に登りましょうとの言葉で締めくくる。そのあと、星子貞夫さんの乾杯の音頭で乾杯をして会食が始まる。料理は地元の女性2人が地元産の食材で作ったもの。唐揚げや団子汁などどれも美味しい。お酒やビール、つまみは持ち込み。

食事をしながら、参加者全員が今年の活動報告と来年の抱負を発表。富士山に登りたい、日本100名山完登を目指している、山に登る体力作りに取り組みたい、大分の山を少しずつ登りたい、スイスの山に行く、病気を克服して体力作りにも励みたいなどなど、それぞれの立場でそれぞれの目標を述べその度に温かい拍手が沸く。食べて飲んで宴もたけなわになると、星子

貞夫さん、首藤宏史さん、加藤英彦さんに安東支部長も加わり山の歌の大合唱が始まり、いかにも山の会の忘年会らしくなる。東九州支部のレジェンドとも呼べる星子、首藤、加藤さんのお三方が並んで山の歌を本当に楽しそうに歌う姿に、昔は山男に歌はつきものだったのだなあと思う。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、10時30分首藤宏史さんの一本締めで今年の忘年会が終わった。16名と少ない参加者であったが、終始和やかで温かい雰囲気にも包まれた楽しい忘年会だった。

翌日は中津市西秣の長谷寺に行き奥の院から稜線に登り一時間の稜線歩きを楽しんだあと解散した。参加者…星子、首藤、加藤、安東、阿南、中野(稔)、下川、石神、今川、中野(梨)、笠井、飯田(修)、榎園、井村、甲斐(善)、三重野(16名)

喜寿お祝い登山報告

清水山 (1077.3m)

安東 桂三 (9193)

2023年10月15日(日)

今年の喜寿お祝い登山は、九重連山の南、清水山で開催された。

清水山の標高は、1077.3m、山頂に4等三角点が設置されている。ちょうど喜寿の歳の御祝いにふさわしい標高の山だ。東九州支部では、毎年10月の第一週頃に喜寿を迎えた会員の御祝い登山を開催し



ている。今年は、大平展義さん、山本康文さん、渡邊保恵さん、工藤吉子さん、尾家暁夫さんの5名が喜寿のお祝いを迎えた。諸事情のため、工藤さん、尾家さんのみが、御祝い登山に参加となった。

竹田市久住町一番水前のレゾネイトクラブくじゅうの登山者専用駐車場に、9時30分までに集合した。会員は各々のペースで登り、標高差240m程を、早い会員で1時間15分、登山開始から1時間40分くらいで、全員が山頂にそろった。

支部長の挨拶は、喜寿を迎えた5名の山歴照会と生き様で始まり、日本山岳会の良いところは、多くの仲間がいると言う事で、そのヒカリモノは『人』であり、喜寿を迎えた先輩たちから学び、目指していきたい、そして喜寿を迎えた先輩たちへは、永遠と山に登り素晴らしい登山を続けてくださいとまとめた。また病气入院中の加藤英彦顧問からのメッセージが届いていたので、河村会員が代読した。支部からの記念品贈呈を行い、本日の参加者で最高齢の首藤会員が、甘酒にて乾杯の音頭をとった。

工藤会員、尾家会員からの謝辞をもらい、記念撮影、昼食のちに下山した。また、本支部で長崎県吉岐にお住いの井手隆尚会員より、喜寿の会員に届いていたお酒は、登山口で手渡した。

本日欠席の大平さん、山本さん、渡邊さんには、記念品を届けた。37名の支部会員が集まり、良い山行でした。

参加者…工藤、尾家、首藤、阿南、安東、飯田(勝)、石神、中野(稔)、宮原、今川(美)、神田、佐藤(裕)、境、河野、深草、中野(梨)、木下、松村、長野、遠江、飯田(修)、清水(道)、松浦、雪野、土谷(耕)、河津、平原(瑞)、榎園、青木、飛高、河村、渡辺(千)、渡辺(和)、佐藤(美)、丸井(元)、上野、清田(37名)

山登山口には、7時過ぎに到着しました。尾鈴山では、春の花のシーズンには、アケボノツツジ、ミツバツツジ、シャクナゲ。宮崎県に分布する黄色い花を咲かせるキバナノツキヌキホトトギズという花も9月下旬から10月初旬頃に観られるようです。花の季節ではないですが、色づく紅葉を期待しながら駐車場に降り立ちました。

計画では、尾鈴山に登り、そのまま下山する予定でしたが、矢筈岳と長崎尾、尾鈴山と周回することになりました。

点呼の後に注意事項としてヤマヒルに気をつけるようにリーダーから告げられました。対策として、虫除けスプレーの散布、地面に座らない、出来るだけ肌を出さないようにとの事でした。ヤマヒル対策を各自行い、当初の計画よりもかなりロングコース、天気も曇りで雨の心配もある中、7時30分、いよいよスタートです。

歩き始めてすぐに手書きの案内板に【尾鈴浪漫街道】1900年前半大規模な伐採があり、山中のあちこちに木材運搬に使われたトロッコ軌道、材木を炭焼きした窯跡遺跡のごときたたまい・・・ロマンチックに五感を感じ取りながらこの道を歩きたい・・・と記されていました。歩き始めは、広くて歩きやすい道です。その昔、トロッコに乗せた木々が運び出されていたのでしょ。橋を渡り、しばらくすると滝が現れました。高さ34m【紅葉の滝】です。黄色に色づいた木々の間から観ることができました。その後【すだれの滝】【さぎりの滝】と続きます。登山道に数ある滝の中でも【白滝】は、高さ75mもあり、写真に納まりきれないほどでした。所々ショートカットしながら矢筈岳に到着です。山頂は、展望も無くそう広くありませんでした。続いて長崎尾にも到着しました、こちらも展望はありません。その後、昼休憩も取りながら尾鈴山に到着した頃には歩き始めて6時間程経過していました。山頂の傍に

尾鈴山(1405.2m)

11月月例山行報告

山田孝美(会友259)

2023年11月5日(日)

11月の月例山行は、宮崎県の尾鈴山です。戸次のホームワイドに5時集合。参加者12名が、車3台に乗り合わせて出発。豊後大野市三重町を通り、北川インターから都農インターまで高速を利用し、尾鈴



尾鈴山の山頂にて

は、祠や鳥居があり幻想的な雰囲気でした。下山中に少しの雨が降り、雨具を使用したのもわずかな時間で助かりました。しかし海が見えるという展望場では、ガスの為、真っ白だったのは残念でした。山道から林道に着いたのは、16時頃です。ヘッドライト等使用しなくてよい時間にここまで来てよかったと思います。心配していたヤマヒルの被害もありませんでした。林道を歩く際にもいくつかの滝があり最後の疲れを癒して頂きました。色付く紅葉を観て、滝の音を聴き、おにぎりをほおぼり、森の匂いを嗅ぎ、秋の風を感じて自然豊かな中で十分な五感を刺激された山行であったのではないかと思います。駐車場到着 17時02分。計画や案内をして下さったリーダーや一緒にいただいた皆さま有難うございました。

参加者…鹿島 (CL)、中野(稔)、神田、中野(梨)、清水(道)、清水(久)、松浦、飛高、井村、河村、山田、興梠 (12名)



日出で自主練してみようかな。凹角ルートの離陸。上野(左)と川村寅(右)、同じ場所同じムーブで苦しむ。

昨年からの進歩が実感できなかったが、冬季山行の季節がやってくることは実感できた。今シーズンはどこへ、何回行けるだろうか。研修翌日 11月13



日伯耆大山に初雪が降ったらしい。参加者…安東 (TL)、中野(稔)、中野(梨)、上野、川村(美)、川村(寅)

支部講習会報告

アイゼンワーク・高崎山

川村寅斉 (会友264)

日時 2023年11月12日

恒例の冬季山行前のアイゼンワーク研修。2年連続の参加となった。アイゼンは、「靴底の雪泥を落として、立位2点支持で、非利き足から、グローブを装着して、片手で装着する」と指導を受けるも、片手装着は難易度が高い。こっそり両手で着けた。自主練しよう。

支部長の熱血アイゼン指導。この後、私語が多くて怒られた。

アイゼン装着後、登攀訓練開始。

今回の研修は昨年経験済みなので、事前にアイゼン登攀のポイントを予習してみた。

- 前爪をエッジにのせる
- つま先をフェースに真っすぐ向ける
- ステップを細かく
- 踵をあげない(靴底は水平)

予習の甲斐なく、凹角ルートでは離陸に苦しみ、何度も落ちた。

支部講習会報告

積雪期登山・恐羅漢山

川村寅斉 (会友264)

日時 2024年1月6日~7日

年末12月30日に私は伯耆大山に登った。雪が少なく苦労して登った。大分への帰路で車中から大万木山を見た。当初の計画では今回の研修山行は大万木山だったが、雪はなく、とても積雪期研修ができる状態ではなかった。同行していた支部

長もどうするか思案していて、私は研修の中止もありえるな、と思っていた。

年が明けて支部長から連絡があった。積雪期研修は広島・島根最高峰恐羅漢山 1346m に決まった。

【1月6日】

別府 SA を 8 時 30 分出発。14 時過ぎに恐羅漢スキー場駐車場に到着。路面に雪はない。林道には足首深ほどの積雪。15 時頃に獅子ヶ谷登山口近くにテント設営。テント内で支部長による「雪山にのぼるために」座学。道迷いや観天望気について議論したのち夕食。今回支部長自ら夕食担当をしていただき、「アルファ米中華丼、ミートボール添え」をみんなで堪能。好評を博した。寝酒もおいしく適量を堪能したのち就寝。



恐羅漢山頂

【1月7日】

各自朝食を済ませ、7時30分ごろに行動開始。まずは旧羅漢山を目指す。夜間の降雪によるものなのか、山中に入ると深雪に苦戦するも雪山を堪能して登る。10時旧羅漢山に到着。降雪も強さを増しているが、メンバーの恐羅漢山までは行きたいという言葉に、支部長の「恐羅漢山山頂へ」の指示。しかしここで恐羅漢山への登山道が見つからない。道迷いだ。30分ほど旧羅漢山で停滞していた。慎重に進路を見極めて支部長が尾根を特定。11時30分無事恐羅漢山山頂に到着。降雪が弱まらないため、すぐに下山開始。下山中に天気が回復傾向となり、小さな斜面で遊びのような滑落停止訓練をしながら下山。13時30分テント場へ無事帰還。小休止のちテントを撤収し大分へ。帰路やっぱり美東ちゃんぽんを堪能して22時支部長宅で解散、研修終了となった。

●観察した特徴物や進路を予測と照合させて、自分の現在地の特定、進路を確認する(確認)

●ピークや鞍部、尾根の合流点や分岐点などでルートを区切って、予測・観察・確認を繰り返す



ていくことで道迷いを防止する。

研修後に支部長が若いころに登った槍ヶ岳北鎌尾根で使用した地図を

みせてもらった。地図上には地形や注意点、テント泊予定地など自身で必要と思われた情報が自筆でびっしりと書かれてあった。

積雪期登山では、事前のプランニングと細かな観察によるルートファインディングがより重要になるということを実感した研修となった。

参加者…安東 (CL)、佐藤(裕)、寺道、川村(美)、川村(真)

登山教室・実践講座(地図読み)報告

一目山・ミソコブシ

佐藤 裕之 (16315)

10月29日(日) 天候 晴れ 風あり
テーマ コンパスの使い方を实地に学び、現地で地図を読む

9月に座学で地図の学習をしたので、現地で勉強し直すこととする。今回は、展望に優れ、地形も比較的単純で初心者でも地図読みをしやすい一目山・ミソコブシで研修することにした。

まず、九重森林高原スキー場の駐車場で、地図の整備を学ぶ。実際にコンパスを整備してもらって、現地確認、周辺の地形を読み取ることを学んだ。

昨日までは安定した暖かい気候であったが、今日は一転して冷え込み、冷たい風の吹く天候となった。地図読みをしている間に体が冷え切ってしまい、準備運動もそこそこに出発したのが失敗だった

か、一目山の急な登りで、辛さを訴える者2人あり、ここを乗り越れば楽になる、と激励して進んでもらった。帰りがけに一人、脚の痛みを訴えたのは、準備運動不足だったかもしれず、準備運動の重要性を痛感する。(下山後の体操も行うべし。)

一目山の頂上で進行方法の確認・特定をする予定であったが、あまりの寒さにいったん下った山裾で研修を行った。途中現地確認などをしながら、みそこぶしを目指す。寒いが良く晴れて、展望が良好なのは救いである。

ミソコブシに到着する頃には、少し気温も上がり、何とか研修と食事ができるくらいにはなった。山頂で後方交合法による現地の確認と前方交合法による山座同定の勉強をした後、集合写真を撮って下山する。



ミソコブシ山頂にて

帰路途中、大分来訪中の千葉の松田支部長(安東支部長案内)と同行の三田氏にお会いし、先日の支部集会出席のお礼も述べ、貴重な話も聞くことができた。

今回研修の特徴は、研修生が理解しやすいように、一目山・ミソコブシでコンパスを使用することを想定したテキストを作成したことにある。

コンパスの使い方は、慣れればそれほど難しいことではないが、説明することは難しい。そこで、初心者が勉強しやすいようにテキストを作ってみた。テキスト使用の効果はあったようで概ね理解いただけたと思う。

折角の地図研修なので、入会2年未満の方に研修参加を呼びかけたところ、5の方が受講され、勉強になったことと思う。希望者には、来年以降も参加してもらいたいと担当者として考えている。

反省点は既にしたので、繰り返さない。

行動時間：5時間、距離・6.3km。：高差385m
出席者…リーダー：下川、笠井、上野、佐藤

会友…松内、興梠、皿山、土谷、佐藤(美)、佐藤(貴)
受講生8名

山のグレーディング調査に参加して(その2)

上野展子(会友253)

祖母山・傾山・大崩山のグレーディング調査・九折登山口～九折越～傾山～坊主尾根コース周回コース

2023年10月6日

今回の調査の目的は不明瞭な登山道や危険な箇所の確認である。10月6日九折登山口に6時30分到着。6時45分に出発した。登山口から林道出合(8:11~8:18)までに渡渉が3回、ロープが連続する岩場があった。慎重に登る。林道出合から九折越へ向かう途中、リーダーが熊が生息していた頃の話をしてくれた。「昔、熊が獲れると猟師たちは祟りを怖れ熊墓を作って祀ったんだよ。その墓がこの辺りにあるはずなんだけど。」と。3人でキョロキョロしながら歩いているとそれらしき物を発見(6回目)。

しばし、かつての傾山に思いを馳せながら休息。後日調べたところ、熊野社と書かれたその祠は明治34(1901)年(明治25年との文献もあり)に笠松山で捕獲された熊を供養する為の物であった。

九折越(9:07~9:19)-千間山(9:33~9:40)-山頂(10:33~11:05) 段々目の前にそそり立つ岩肌が迫



って来る、傾山だ。左には二ツ坊主、吉作落とし。山頂手前にもロープの連続する岩場があった。

山頂-水場坊主尾根分岐(11:29~11:35)-合流点(13:03~13:08)-三ツ尾(13:29~13:33) この間には外れたり固定がぐらついているハシゴや鎖、ロープの悪場がある。また、鞍部から坊主の東側を巻くべき所、坊主のほうへ踏跡があり道迷いの可能性があると思った。

三ツ尾-登山口(15:00) 観音滝上の渡渉、脇を下る細い道は慎重さを求められる。登山中はずっと気が抜けず緊張の連続であり、下山した時はほっとした。

累積標高差約1500mを登って下るルートである事、ハシゴ、鎖、ロープの岩場、狭く崩れた道、渡渉がある事から、体力、技術能力どちらも難易度は高いと感じた。

また、この日は前日と打って変わって肌寒く、翌日は雨だった。天候の見極めも安全登山の為の大切な要素だと思った。

参加者…安東、笠井、上野



写真のキャプション・九折越コースの6合目にある熊野社(明治25年11月に捕獲された熊の祠)

令和5年度安全登山指導者研修会 (西部地区)に参加して

秋山和俊 (16871)

公益社団法人日本山岳・スポーツライミング協会・国立登山研修所主催

今般、11月10日から12日までの2泊3日、奈良県で開催された表題の研修会に参加しました。今回のプログラム学習として①「リスクマネジメント」②「リスクマネジメントから考える「読図とナビゲーション」」この2つにフォーカスした参加者22名の3日間の研修でした。

参加の動機として、講師である国立登山研修所の北村憲彦先生の講義を受講したかった・・・福岡でも開催

された登山研修所サテライトセミナーでの「リスクコミュニケーション」について、興味があり、もっと深く学びたかったこと、またリスクを考えたルートプランニングの実技がある事、この2つを学びに奈良市立青少年野外活動センター・・・柳生街道にかこまれた場所に行きました。

1日目は講義日として、以下のテーマについてグループワークを行い、発表する流れを終日行いました。以下の設問にそれぞれ少しお考え頂ければと思います。

- ① 「日帰り夏山」に行く場合、雨具を忘れたらどうするか？
- ② どこで・いつ気付くとリスクが軽減されるか？
- ③ どうしたら防げるか？

皆で考えた答えは(一部ですが)「日帰り夏山」の場合の各リスクを出し合い

- ① 下山する。代替できるものは無いか(ツェルト・ごみ袋)。皆で困む。樹林帯での雨宿り、小屋、岩屋 >事前の地図読み(リスク減)
- ② 集合したとき、登山口、山行中の樹林帯、事前の地図読みと全員での共有
- ③ 装備確認を確実に言う >出発前にすべて出して確認する(パッキングをしていると面倒だが行う)

このような討議を繰り返し行いました。そしてこの討議は全員で行う事=全員が主体的に考え、全員でリスクを共有し、対応できるパーティーを作ることを目的としていて、北村講師は「登山中断と遭難回避を仲間と事前に約束し、安全登山のガイドラインと情報共有、そして合意が重要であることを理解するワークショップ(これを各会で行ってほしい)>自立した登山者の育成がリーダーの義務との考えでした。

2日目は実技で、周辺の地形図にリスクポイントを書き出し、またなぜリスクがあるのか?また講師によ



り作成されたリスクポイントについて、なぜここにリスクがあるのか？をまた討議、討議と重ね、コンパスを持って、実際のフィールドに行き確認することを繰り返して行いました。

(写真は使用した地図です)

3日目は討議を再開し、色々なテーマを行いました。が・・・。「登山で遭難」となった場合、3つの切り口でどれだけの回答が瞬時にできるか？

この3つの切り口とは 場面 / 事故例 / 対策です。これを3分以内にいくつ考えられるか・・・例えば ● 風雨 / 低体温 / 雨具着用 ● トラバース / 滑落 / フィックスロープ ● 道迷い / 遭難 / 地図・GPS ● 日射 / 雪盲 / サングラス

この目的は、多くの例を考え、リーダーは瞬時の判断を行う事のトレーニングでしたが、このように話し合う事、意識付け、そこに「リスクコミュニケーション」があり、いかにして山岳会の仲間実感を持って考えてもらえるか、伝えられるか・・・安全登山教育＝みんなが気が付く、気付かせるから価値があるとの講師の意見に賛同し、3日間の最後の講習を終わりました。機会あればこのような「リスクコミュニケーション」について皆さんとお話し、深めて行きたいと思いました。

最後に今回この講習会に参加しましたが、リーダーとして、リスクへの考え方、対処、全員でのワークショップ、学びと参加費以上の価値を見出した講習会となりました。次回も自己研鑽のため、中央での講習等に参加したいと考えています

れぞれの方面から、宮崎県高千穂町五ヶ所三秀台に集合した。

ウエストーン顕彰碑の前では、この日を祝福するような好天に恵まれ、祖母山をはじめ、阿蘇山・くじゅう山とても美しく見えた。

式典は、15時受付開始、15時30分開会、16時閉会であった。

式次第は、以下の通りであった。

地元地区代表者挨拶、宮崎支部長(日高研二氏)挨拶、前日本山岳会副会長(坂井広志氏)点鐘(五ヶ所地区小中学生)、「ウエストーンにささぐ詩の朗読」、「ウエストーン祭の歌合唱」、万歳三唱。

式典終了後、一旦本日の宿泊地である五ヶ所高原ひめゆりセンターに引き上げたのち、18時から地元との交流会となった。交流会場は例年と同じ「五ヶ所野菜集荷場・広場」であり地元特産物の販売所が設けられていた。神事が始められ高千穂町長の挨拶。のち地元地区代表世話人の紹介。御神楽が始まり、今年も無料の鬮歩酒が振舞われた。ステージでは定番の地元有志による和太鼓の打ち鳴らしや、婦人部のフラダンス等の出し物があった。フラダンスは名物と言っていいほどファンが多く、当支部にもこのフラダンスを見て始めた方もいるくらいで大変人気である。だがメンバーが段々少なくなるのが気がかり。宴もたけなわになりキャンプファイヤーが始まる。地元のカップルが点火、炎は舞い上がり満天の星空を焦がす。

地元は、今回コロナ明けで開催のGoサインを出すのが遅れたようだが、未永く続けて貰いたいと思います。20時閉会となった。



20時15分から、五ヶ所高原ひめゆりセンターにて、五支部懇親会。各支部の代表者が持ち回りで支部の問題点、課題等を出し合ったが、どの支部も会員減

第39回宮崎ウエストーン祭に参加して

阿南 寿 範 (9169)

2023年11月3日(金)

今年の「第39回宮崎ウエストーン祭」は今年5月、コロナウイルス感染症予防処置が5類に緩和されたため、4年ぶりに地元高千穂町と共同開催が出来るようになった。

今回支部からの参加は、支部の他行事と重なったため、5名にとどまった。車3台に分乗し5名はそ

少、高齢化が共通点であった進展あるものではなかった。明日山行を予定している支部も多いので片付けて22時に消灯とした。当支部は4日(土)は山行を行わず朝解散とした。

参加者…加藤、今川、神田、甲斐、阿南

JAC ユース交流会 2023 in 岐阜 高木山・伊木山に参加して

田所歳朗 (14024) 橋本 桂 (A-0488)

令和5年11月3～5日、ユースのクライミング交流会が開催された。東九州支部からは、安東支部長、田所さん、橋本の3名が参加させていただいた。11月3日、9時桃太郎公園駐車場に、JAC YC (ユースクラブ)、岐阜、信濃、関西、東海、東京多摩、広島、東九州支部のユースらが集結した。YC 松原委員長より、安全第一に交流会を楽しみましょう、とご挨拶をいただき、乗り合わせて高木山へ出発する。10時半に高木山ショートルートの登攀開始。私は国際山岳ガイド谷氏から基礎講習を受ける。谷氏から、ビレイの方々、エイトノットの結び方、登攀開始における、登攀者とビレイの相互確認の仕方などの講習を受ける。そのあとは高木山のショートルートを各々で楽しんだ。グレードは比較的初心者向けだが、所々で工夫されたムーブで登る場所などあり、素晴らしいルートばかりだった。11月4日、クライミング交流会2日目、マルチピッチルート北尾根10ピッチ。脆い堆積岩は崩れやすく足元に小石が大量に積もっているため、ゆっくりとスタティックに登る。ロープも滑らかに操作。すぐ下に別のパーティーがいるので、とにかく石を落とさないようにする。1ピッチが20～30mと短いですが蛇行しているのでこれ以上長いとロープの流れが悪くなる。北尾根の岩は上に行けば行くほど結晶が荒くなり、岩にトゲが生えているように思える。早くから登り始めたので午前中に昨日登った南陵のテラスに降りついた。そのあとは、関西支部のメンバーとショートルートを登って帰路についた。今回は2回目の開催で既に顔見知りの参加者も多かったせいか、去年より会話が弾みリラックスしたムードで気疲れは余り感じなかったが、夜の一芸が来年の課



題となった。去年一緒に登った人達の中には橋本桂さんの成長に驚いた方もいたようで登りが別人になっていると言われていた。自分から見ても驚いた。去年と言わず先月と別人。今が伸び盛りなのでしょう。来年は九州で開催予定。近くて助かるが準備は大変。役員のみならず、よろしくお願ひします。おわりに、イベント開催にご尽力くださいました本部松原委員長、高木山をご案内いただきました地元クライマー石際さん、

カナダ在住谷ガイド、山田ガイド、日本のクライミング史、黎明期を築いた池田功氏、心温まるおもてなしいただきました東海支部の皆様、他支部の皆様、楽しいひとときをありがとうございました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

参加者…田所、橋本、安東

支部連絡会議参加報告

安東 桂三 (9193)

2023年12月2日(土) 令和5年度年次晩餐会に先だち、支部連絡会議が開催された。安東と阿南が参加した。以下、要旨。

1. 会長挨拶

本年就任した橋本しをり会長は、日本山岳会がこれまでの発展の歴史に学びつつ、新しい時代に順応するべきと述べた。会員の高齢化・減少の対策として、若年層の登山者を増やす必要があり、登山の魅力若者に伝える取り組みをする。山岳環境の保全を推進し、日本山岳会の役割の再定義をしたい。日本山岳会は山登りが好きな人の集団。高所登山から低山ハイク、若いものから、年配まで、男女を問わず、山を知らない人にも、山の魅力を伝えたい。会員減少を止め、10年後には、会員倍増したいと述べた。

また、女性会員は2割しかいないが、これを増やし、本部支部問わず、女性会員も役員にと思う。各支部の女性役員比率の調査もしたい。

日本山岳会は支部によって支えられているので、支部の行事に出かけていくつもりと述べた。

2. Google Workspace を活用し、共有ドライブによる情報交換をしたい。最終的に日本山岳会の各会員にメールアドレスを付与すると永田副会長が説明した。

3. 及び4. 収入確保、会員数の維持、会員数の増加および コスト削減

ここ10年以上、会員の減少が続いて、日本山岳会の運営が難しくなっている。入会促進のために、入会金の減額を検討したい。準会員制度の見直し(制度そのもの、および、期間)もしたい。会報(山)のコスト削減、通信費の削減のために電子配信、クラウドからの各自ダウンロード、発行回数の削減など。

これらについて討議を行ったが、結論を出すまでいかず、再度、支部に持ち帰って、支部内で話し合ってくれという事になった。

日本山岳会の収支を述べると、毎年500万円ほどの赤字となっている。このままでいくと、令和9年度には、経済的に大変な状況になる可能性がある。経費については、本部事務費、会報にかかる費用、晩餐会にかかる費用などがある。収入を増やせば良いので、遺贈や寄付のすすめ、事業の開発を考えたい。会費の4割が出版物に使われ、その約半分が送料となっているので、その経費を削減したいとのこと。準会員から正会員への移行が少ない。また、1995年に会費を12000円に改定してから、値上げしていないので、値上げも選択肢の一つ。

小さな本部にして、支部中心にしたい。本部はツアーの提供、広報活動をしたい。そして支部は自主性に基づく活動をしてとの事。

私は、ここ3年間、多くの支部連絡会議に参加したが、今回の支部連絡会議は、多くの支部長、事務

局長らが、意見を述べ、危機に対応しようと議論がなされたと感じる。すべてを記載出来ないが、皆で、解決策を導きだそうとした。

私を感じるのは、魅力ある山岳会であれば、会員は増えると思う。魅力ある支部にせねばと思う。ただ、日本全体を考えると、少子高齢化と人口減少で、多くの業界で、人が足りなくなっている。同様に、趣味の組織でも同じく、大変な状況と思う。

また、九州5支部内で、行事(月例山行)などの共有化をして、九州内の他支部の行事にも、参加できるようなことは出来ないかと、福岡支部の渡部事務局長より提案があった。

5. 熊野古道集中山行(2024年5月18日~19日)

120周年記念行事のイベントで熊野本宮にて集中山行を行う計画の提案があった。支部にて計画し、宿の確保も支部でとの事。

年次晩餐会記念講演会参加報告

安東 桂三 (9193)

柏澄子(総務委員会)さんが総合司会で、以下の3題の講演があった。

第1部 特別講演「ティリチミール北壁初登攀バールに隠された標高差2000mの北壁に向かう」平出和也、中島健郎

ティリチミールはヒンズークシ山脈の最高峰で、エベレストより登頂が難しく危険な山と言われている。この北壁に取り付くには、取巻く6000m峰を越えて取り付かねばならないので、クライムダウン(懸垂下降)して取り付くという困難さがあった。彼らは、この北壁が最終目的ではなく、次は、K2 West Buttressに登りに行く計画があり、そして山頂がゴールではないと言い、刺激をもらった。

第2部 120周年記念事業「日本山岳会中央ナパール踏査隊「グレート・ヒマラヤ・トラバース」報告 カンチェンジュンガ山群からアンナプルナ山群までの、遥かなる歩み」重廣恒夫、吉井修、飯田邦幸

120周年を記念し、2020年から2025年まで、ヒマラヤの東から西に向けて、5000kmの踏査を行っている。今回、マナスルBC、ラルキャラ峠、ナムン峠、トロン峠を目標とし、376.8kmを35



日間で、踏査した。重廣さんは、過去のネパールの山々に登ったことを、若い人に伝えないと駄目だと言いき、登山(技術、知識)の伝承を使命としている姿に、尊敬をもって講演を聞いた。

第3部 秩父宮記念山岳賞受賞記念講演「北アルプス(飛騨山脈)の形成—マグマとプレート運動の共演による山脈の形成」原山智

北アルプスが如何にできたか、また、梓川の流れば、如何に変わったかなど、ジオについて詳しく述べられた。NHKの放送(プラタモリ)でもあったが、槍ヶ岳の傾きと、爺ヶ岳はとんでもないくらい標高の高い山であった説明を聞いた。

原山さんは、最後に、ジオの研究者がいないことを述べられた。政府は、研究の成果を求め、地道な研究、地質の研究などは、何十年もかかって調査し、多くのデータを収集するが、成果が出にくいこともあり、この地質の研究にすすむ学生が少ない。一人もいないと言いき、今後の研究の困難性を参加者に訴えた。

新人会員紹介(新人会員の紹介は出席者の20名のみ紹介。秩父宮記念山岳賞表彰(受賞者は、信州大学名誉教授 原山智氏)。つづいて、鏡開きで、前会長古野淳(12194)が乾杯の音頭を取った。

この後は会食。各テーブルに「テーブルマスター」が指名されており、テーブルマスターの指示に従って、食事・自己紹介をしながら地方の山の情報を交換しあったりしてひと時を楽しんだ。宴もたけなわになった頃、司会者から宮内庁侍従長通し、天皇陛下のメッセージが紹介された。今回出席できなかったこと残念がられている様子でした。

閉会前に支部会員と同伴者、それに当支部のゲストとしておなじみの重廣恒夫 JAC 元副会長も入って頂きステージ上で記念写真。行閉会はほぼ時間通りに午後7時30分に万歳三唱で締めくくられた。

私は入会して以来、一度も晩餐会に出席したことがなく今回が初めての体験で短い時間ではありましたが、良い体験になりました。

参加者…星子(貞)、加藤(英)、阿南、安東、飯田(勝)、石神、土屋、佐藤(壮)、日向

同伴者：星子(英)、加藤(依)

年次晩餐会参加報告

阿南 寿 範 (9169)

今回の晩餐会は、コロナ明けの4年ぶりの開催となり、広い会場内は44席の全国の山名のついたテーブルが設けられ、参加者335名(会員および同伴者)着席した後、開会された。私たち東九州支部から参加した支部会員及び同伴者11名は14番(久住山)を中心にその周囲のテーブルに着いた。

6月に就任した橋本しをり新会長の挨拶(山岳会をさらに発展させるため、『みんなの山岳会』をキーワードに1.会員の高齢化・減少の克服、2.登山者の多様化への対応、3.山岳環境の保全の推進、4.日本山岳会の役割の再定義の4の目標掲げた)ののち物故会員への黙祷(対象者78名)、新永年会員顕彰18名(今井通子会員(7646)が代表挨拶、当支部からは山本康文会員(7633)が新たに永年会員になる。



晩餐会会場



挨拶をする橋本会長



新入会員の紹介



年次晩餐会参加の支部会員と同伴者(中央右は重廣氏)

ペンリレー・第48回

傘寿を迎えて想う山の仲間

江藤 幸夫(8572)

小学3年生の春にボーイスカウト大分第一隊へ入隊し、夏季訓練で登った山が由布山で、私にとって初めての登山らしい登山でした。以来、山に登り続けて今日に至りましたが、今年は傘寿で80歳になったので72年間休まずに登り続けて来たこととなります。近頃は気力、体力も落ち、大きな山行は無理ですが体が動く限りは登り続けたいと思っています。

振り返ると私の山人生は良き先輩、仲間に支えられ、良きチャンスに恵まれました。ボーイスカウトで野外活動に熱心な高橋隊長と出会い、大分近郊の山に登り、ロープの扱いや読図、キャンピング等の基礎を教わりました。又、山の手中学校に転校すると、なんと当時(今でも)としては珍しく学校に山岳部があり、ボーイスカウトで自然になじんだ私は迷わず山岳部へ入部しました。

荒金、入江、飯塚の3教諭の指導で県内の山に登りましたが中学生と言う事で部の活動は日帰り山行しか許可が出ず、幕営訓練等は校庭にテントを張って泊まるくらいでした。

私は、山岳部の山行が少ない事が不満で、休みには良く一人で近郊の山に登りましたが、ある日の帰り道「二豊山岳会」の看板が掛かった床屋に出会い「これだっ」と思うとその店に飛び込み、床屋の店主で二豊山岳会の役員でもある南崎大海さんに入会を頼みこみました。始めの内は「中学生の会員は例が無い」と相手にされませんでした。何度か通ううち私の懸命さに同情したのか「親の同意書」があれば入会を考えようと言ってくれたのです。

私は急ぎ帰宅し、親にねだって同意書を書かせるとその日の内に南崎さんの元へ走りしました。南崎さんは同意書を見ると苦笑いをしながら「会の理事会に計り皆が承認しなきゃあ正式に認められないが、まあ、これからは君が登れそうな計画の時は連れて行こう」と言ってくれました。以後、その言葉通り南崎さんが選んでくれた山行に付いていくうちに二豊の先輩諸氏に可愛がられるようになり、中でも野口秋人さん(東九州支部2代目支部長・野口病院院長・旧松本高校山岳部員)には特別可愛がられました。中学2年の夏に連れて行って頂いた穂高で、野口先生の口利きで信州大学山岳部の奥又白合宿に入れてもらい前穂の岩壁を登攀した(と云っても勿論ザイルのミッテルで)のが初めての本格的岩登りで、中学の図書室所蔵の写真集「万年雪の王国-ガストン・レビュフアー著」に見出した憧れのアルピニズムの世界を穂高の青空と岩壁と雪渓に垣間見たのでした。

中学から鶴見ヶ丘高校へ進学すると当然山岳部へ入部しました。鶴高山岳部は顧問の青田教諭の人柄からか、上級生は勿論のことOBも含め纏まりが良く、新人山行や合宿には必ずOB(OGも)が何名か参加し、久住山で冬山合宿や阿蘇高岳で岩登り合宿をする等、当時の高校山岳部レベルとしてはかなり高かったと思います。体力も技術、知識も良く鍛えられ、厳しく面倒を見てもらいレベルをあげました。

又、その頃よく通ったサニー山の店の西諒さんに「ヒマラヤ研究会を作るからお前も参加しろ」と誘われ、海外の山に憧れていた私は一も二もなく飛びつきました。その後研究会をベースとし、JAC東九州支部主催の下に1965年九州初のヒンズークシヒマラヤに登山隊を出すことが決定し、遠征準備とトレーニングに参加した結果、私は隊員に加えられ目標であるコー・イ・モンディの頂きに立つことが出来ました。その後も韓国、ヨーロッパ、チベット、ネパール、南米、北米と海外にも幾らかの足跡を残しましたが、全て出発点は人との繋がりでした。特にJAC東九州支部の先輩や仲間には今も強い繋がりを禁じえません。今は鬼門に入られた先輩諸氏を含めJACの仲間にも心からありがとうと唯々感謝です。

次回ペンリレーは石神美智子会員(14649)にお願いしました。お楽しみに。

山秋の九重を歩く

下川 智子 (14505)

8月の5支部集会で講演をしていただいた千葉支部の松田宏也支部長が、秋の九重を歩きたいと、三田博事務局長と来県。10月29日から、3泊4日の九重連山の山旅にご一緒させていただいた。同行は安東支部長、笠井、上野、清田、下川。

初日の夜はログハウス「カナディアンヴィレッジ」で歓迎会。美味しい大分のお酒や焼酎を飲みながら、山や支部活動の話で盛り上がる。

翌日は大船登山。総勢7名で9時出発。大船林道ゲートから上の駐車場まで車で行く。そこから林道を坊ガツルに向け歩いていく。坊ガツルに着くと、紅葉の平治、大船が目の前に広がっている。大船登山口から段原までは紅葉も終わりに近く登山道が赤や黄色の絨毯のよう。段原直下でNHK ラジオ「山カフェ」の石丸謙二郎さん、ユーチューバーのかほさん、爆走 SAKI さんの3人と出会う。石丸さんが松田さんの友人ということで、しばし休憩をかねて楽しいおしゃべり。

段原からは岩がちの急傾斜になるので慎重に進む。12時大船山頂。昼食後、予定のある安東支部長、上野さん、清田さんが先に下山、ここからは笠井、下川のみ案内となる。

大船山頂からの雄大な景色を堪能後、下山開始。今夜の宿の法華院温泉山荘に16時到着。



お風呂の窓から夕焼けに赤く染まる紅葉の大船山を眺め、素晴らしかった今日一日を感謝。夕食は石丸謙二郎さん、爆走 SAKI さんと同席、山の話、ウルトラマラソン、宇宙食の話で時間があっという間に過ぎ、最後は石丸さんをお願いして、山荘のピアノで

ドビュッシー「月の光」を演奏していただき大満足の夜となった。

10月31日8時、法華院温泉から久住山に登る。北千里ヶ浜までは初めからかなりの急傾斜でゆっくり慎重に登る。北千里ヶ浜から三俣山、硫黄山、星生山を右に見て久住分かれに登りあがる。久住山頂で昼食。天気は快晴で阿蘇五岳から遠くは雲仙まで見渡せる。

昼食後、九重慰霊碑で安全登山を祈願し、避難小屋へ。ここから、中岳、天狗に登る三田、笠井チームと御池を通過して下山する松田、下川チームに分かれる。久住分かれで合流し、4人で法華院温泉山荘を目指す。道中、松田さんにとっての山の魅力は何ですか、と質問。1. 五感を研ぎ澄ませる。2. 自分との対話、自然との対話。3. 見たことのない風景に出会う。4. 心が震える体験ができる。5. 喜びがある etc.

さらに日本山岳会会員であることの意義は、全国に山友ができる。仲間との繋がりが深くなる、と。最後に「山脈は人脈だ。ただし、金脈ではない」の名言(迷言?)も教えていただく。

16時予定通り、山荘着。温泉に入って今夜も楽しい夕食。

11月1日、法華院温泉山荘を8時出発。坊ガツルから雨ヶ池を通り、長者原へ下る。このコースの紅葉が4日間で一番素晴らしく、あちこちで写真を撮り、たびたび休憩もして心ゆくまで秋の九重の紅葉を楽しむ。長者原の木道は金色のススキが輝き、振り返れば三俣山の雄大な姿が眩しい。長者原ビジターセンターを案内して、好天に恵まれた3泊4日の素晴らしい九重の山旅が終わった。

今回の山行でたくさんのお話を2人から学ばせていただいたが、松田さん、三田さんとの登山では



登山の前と後に、必ずしっかりとストレッチをした。特に下山後は、体がまだ温かいうちにストレッチをすることが重要で、翌日の筋肉痛を防ぐことができるとのこと。これからの支部山行で実践し、いつまでも山に登れる体作りに生かしたいと思う。

凍傷で両膝下、両手指切断ということを全く感じさせない力強い登山姿と魅力的な人柄、自然体で純粹に山を楽しむ松田さんの姿に、これからの山との向き合い方を教えていただいた気がする。4日間、本当にありがとうございました。

こぎこぎ倶楽部山行

天測点のある笠山と

子午線標の探索山行

柳瀬 里子 (会友 163)

2023年10月28日(土)～29日(日)

山行目的

「熊本県に唯一天測点のある一等三角点の「笠山(567m)」登山とその子午線標しの山歩きとついでに付近の熊本百山の「竜峰山(517m)と竜ヶ峯(542m)」に登山」天測点(柱)のある笠山の子午線標が子(北)の方向の虎頭山山頂付近にあるのではないかとリーダーが推測し探し出して確認する。

子午線標とは天測点から数キロメートル以上離れた真北あるいは真南に子午線標という目印の石柱が設置されたもの。現在はGPS等観測機器の充実により使用されていないが天測点、子午線標とも先人の国土測量の歴史遺産として貴重でありロマンを感じる。天測点は全国で48ヶ所設置され、九州には6ヶ所あり、大分県には矢筈岳(姫島)と元越山にある。

子午線標が藪の中に隠れていたり、もしくは午(南)の方角だったりすると探し出すのが困難な場面も予測される。当日の28日は御立岬公園キャンプ場に泊まることとし、折角なので翌29日は近くの竜峰山～竜ヶ岳に登るという計画。

途中でハプニングがあり日程が入れ替わり2日目に子午線標を探すことになった。

1日目(10月28日)

早朝5時半に別府湾SAに13人が集合し3台に分乗して九州道に行く。途中平川SAで休憩。その後八代ICを降り竜峰山に向かう。777石段登山口もある

が五合目登山口駐車場から、らくらくコースと階段コースに分かれて頂上を目指す。



竜峰山山頂で

頂上には八代山岳会の方々が寛いでいた。少し離れたところに三等三角点がある。そこから鞍ヶ峰を経て竜ヶ峯に向かう。途中には龍の背と称される洗濯板(メンバーが称した)様の縦じまのある岩がゴロゴロ。石灰岩が長い年月の雨水で浸食されたものという。縦走路は思っていたより急なアップダウン。龍の岩屋の表示に沿って探したが岩屋は見つからず終い。岩の重なりが龍の住みかという意味だろうか。龍にちなんで夢を持たせているようだ。一帯は市街から近いので市民の憩いの場となっている。

下山後は早めに宿泊する御立岬キャンプ場に到着。温泉に入りコテージで鴨鍋や持ち寄り料理に舌鼓。食べたり飲んだりでわいわい楽しく歓談するが明日に備えて早めに就寝。

2日目(10月29日)

午前7時前に朝食を済ませてから出発。子午線標が笠山から見て、子(北)の方角の虎頭山(426m)にあるとリーダーは推測していて虎頭山登山口に向かう。まずは山頂を目指し藪の中に分け入る。



笠山の子午線標を囲んで

虎頭山の頂上を確認してから南の方向に進むと、ほどなくして発見できた。万年青年と自称するリーダーが重心に帰ったように大喜び。みんなで山岳会先輩の西さんがしていたという「ヤッホー」と喜びの雄たけびをあげる。早くも目的が達成でき少し拍子抜けの感もあった。もし見つからなければ午(南)の方向も探すかどうか思案するところだった。安堵して早速天測点のある笠山に向かう。

笠山の登山口は馬頭観音のところに急登の登山口があった。枯れ葉が積もる急登を慎重に登ると大岩が現れる。大岩を回り込むと雨ヲラビ岩と頂上との分岐があり、まずは雨ヲラビ岩に向かう。雨乞いの場所だったらしいが眺望抜群。ここで雨乞いのためヲラビった(叫んだ)のは良くわかる。しばし眺望を堪能してからいよいよ笠山に向かう。山頂には一等三角点があり近くに8角の石柱があり天測点と書かれている。ここでも万年青年のリーダーが石柱を抱くようにして写真撮影。簡単に昼食休憩としたが山頂には眺望はない。

さて、天測点と子午線標の確認が早めに来たので帰りの途中でもう一座、飯田山に登ることになり移動する。飯田山の名前の由来は「昔この山に名前が付いていないころ正面にある金峰山に向かって背比べをしようと言い出した。ところが金峰山の方が背が高いことが証明された。もう背比べをしようなんて「言い出さん」と言い飯田山と名前が付いた」とのこと。無用な争いは避けよとの戒めでしょうか。頂上は眺望もよく気持ちの良い時間が流れた。下山は女5人で急なおとこ坂を下った。帰路はまた高速を走り午後5時過ぎに別府湾SAで解散となった。

行きの車中でほんの少しだが霧雨がフロントガラスにあたり天候を心配する場面もあったがその後はすっきりと晴れ渡り二日間とも良いお天気に恵まれた。無事に楽しい山行が出来た事、同行の皆さんに感謝です。

参加者…飯田、中野(稔)、今川、宮原、神田、柳瀬、遠江、清水(道)、清水(久)、古谷、飛高、甲斐(英)、諸田(13名)

こぎこぎ倶楽部山行

紅葉を求めて

船木山から仙岩山へ

木下 恵子 (17047)

宇佐に住んでいながらどちらの山にも登ったことがない...これはぜひ行きたい!と、久しぶりに参加させてもらった。

11月19日(日)晴天。仙岩山登山口に車2台をデポし、高並公民館に集合。車でしばらく上がって行くと八面山や宇佐七山などの景色のよい峠に出て、船木山登山口の小さな標識が。登山道が分かりにくく早速こぎこぎ気分。落ち葉に埋もれた階段を登って行くと送電鉄塔が現れ、更にヤブに突入。

先頭の方はよく道が分かるものだと感心しながら歩いていると見晴らしの良い伐採地に、しばし景色を楽しみ、約50分で船木山の三角点(476, 5m)に到着。樹林帯に囲まれ展望はないが、まずは集合写真。



船木山三角点山頂で

広い稜線を歩いていると2m程もある優しい顔の立像が現れビックリ。たぶん薬師如来で、馬で運んで来たのだろうという話に。こんな発見は楽しい。更に進むと樹皮がパラパラと剥がれた鹿子の木、絨毯のような手触りのオレンジ色のキノコの株、アケビの仲間のムベなどに遭遇。しばし足が止まり会話が弾む。キクラゲの収穫も。11時前に仙岩山(572m)に到着。ここも展望はないが明るい日差しの中で集合写真。風のない暖かい場所を探して昼食タイム。

ここまでは木漏れ日降り注ぐ気持ちの良い稜線歩きを楽しめたが、ここからが正念場でいきなりの急

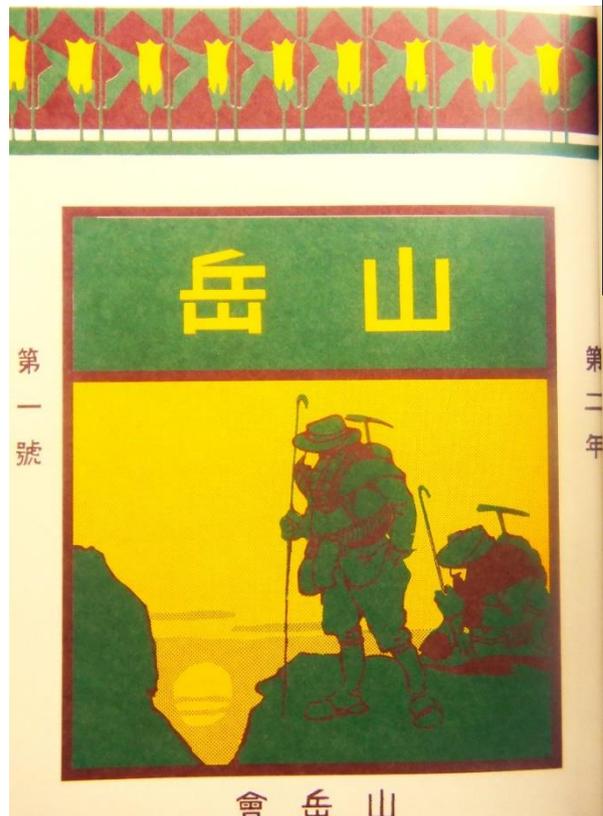


仙岩山山頂で

斜面が始まった。テープは所々あるが、どこが歩きやすいかを探しながらの下り。2つのピークがあると聞かすが、いくつものアップダウンを慎重にやり過ぎた感がある。13時過ぎに仙岩山登山口に無事に到着。車で少し移動して眺めた「仙岩山の景」の奇岩が立ち並ぶ風景が圧巻！国指定名勝耶馬溪に指定されているとのこと。今年の紅葉はどうしたのかな？ではあったが、こぎこぎのワイルドな山歩きを楽しめた1日だった。

参加者…飯田、今川、木下、遠江、柳瀬、清水(道)、清水(久)、古谷、甲斐(英) (9名)

山岳第一号の表紙



「階下の人声に起きて雨戸を押せば、残月煌として老杉の梢に懸かり、案内の若者は早や来れるに、一瓶の「水と数足の草鞋とを荷せて立出づ、夜は漸明けたり神社の境内に入りて左折するに「高千穂峰参詣道」の文字を石に彫せり・・・」とあって、高千穂の峰への登山の記述となる。

「一時間にして全く森林を去りて細径一路荒廃せる一軒の廃屋を得ぬ、風雨幾年家根も大方落ちて人の住むべしとも思われず、聞けば是れ硫黄採集場の跡なりと・・・吾等の歩みつつある四周は荒涼たる地獄絵巻中なり、分けていく枯茫と彼方此方に怪獣の蹲る如き火山岩塊と白骨となれ樹幹は或は立ち或は伏し宛ら幾萬の觸體狼藉せるかと怪まる・・・」

道々案内者から二、三の悲惨なる歴史を聞く
数年前に西洋人が案内者に連れられて登山中「一天俄に怪溟、火山より避けたる岩石渦上し、洋人は負傷し案内は死ぬ、後に案内者の宅に洋人より多くの金を送りぬ」とある。また「五人の獵夫は数頭のおぬを伴ひて猪狩と此の四遍に來りぬ・・・、不意に火の雨降り來りて一同其場に斃れたり、犬は賢き者にて直ちに村に走せ下りしを村人塔怪しみて見れば毛は所々焦げたり、されば大騒ぎとなり数十人あつめ・・・、現場に馳せしが、其時の慘状あ思ふさへ慄然る程・・・、打倒れるし者共は或は死し或は蟲の息あり、頭髮は焼け、顔面は紫色に腫れ上り誰を誰とも定めず・・・」

JAC 古典「山岳」拾い読み No2

霧島登山

飯田 勝之(10912)

古い「山岳」の中に散見される大分県や九州の山に関する記事の拾い読み、第二回の今回は山岳第二年第一号(明治40年3月)に掲載されている手島漂泊氏の「霧島登山」を紹介しよう

「医師にして兼ねて旅行家ある橘南をして絶大の恐怖と尊厳とを印象せしめし霧島山、吾は幾度か錦江に浮かびて其がカイザル帽を伏せしに似たる山容を望みしが、時を距てて蒸上する黒煙の一大圓柱を見ては、所謂馬の背越の一角に立ち、尚進んで神代の遺物と傳ふる天の逆矛をも探欄との好奇心、むらむらと起こりて秋晴れの一日、旧友竹村君を誘ひて立ちぬ・・・」

この後の医者手島氏との記述は、友と二人で鹿児島を発って国分駅で汽車を降りて馬車で霧島神社へ至り、その日は社前の旅館に投宿と続く。

「馬の背越也。一條の細徑を除き手は左は名刀もて断切りけん、登路にも増せたる急斜面、一度踏み外さば鞆の如く千仞の山麓に轉落せん・・・ 仰げば高千穂の絶頂は尚数町の高さにありて春笋の如く屹立す。枯草の折伏せるを踏みつつ漸く天邊の一角に建てり。石を積みて垣となし東面のみ廣く、其中に天の逆矛巖として立てり、・・・此山が高千穂峰の所在地なりや否やの問題は諸説紛々として一ならず、然れども上代は遼たり・・・、歴史的価値を置く能はずと雖も我は今や靈山の絶頂に長嘯して此鋒が神代の遺物や否やを問ふの暇あらんや。」

この後二人は、突然曇ってきた空に追われるように下山して、夜は山麓の栄ノ尾温泉に投宿して翌日鹿児島に帰っている。(第二回終わり)

より安全な登山のために No.52

命を捨てるな 低体温症

安東桂三 (9193)

この秋多くの命が亡くなった。無駄に命を捨てるような事柄だった。10月6日から7日かけて、那須町の朝日岳では4名の方が亡くなり、いずれも低体温症による死亡と診断された。当日同場所では雨が降り、強風が吹いていた。6日に日本にある低気圧が急速に発達し、また、北海道西部にあった低気圧が南下し、強い寒気のために全国各地で初の冬日となった。5日のニュースでは、6日が西高東低の「冬型」となることが警告されていた。ニュースで予報されていたので、その情報を信じて山に行かねば亡くなることはなかった。あるいはそれを信用し、ツェルトや防寒具、エネルギーとなる食料を持参すれば亡くなることはなかった。残念なこと。本年は同じような低体温症の死亡事故は多かった。

また9月末には、大分市民の登山者(62歳)が、奥穂高岳天狗の科尔にて、低体温症で亡くなった。大分市民でニュースでは氏名も出たので、支部会員には、お知り合いの方もおられるかもしれない。彼は9月25日に上高地から入山し、槍ヶ岳へ。翌26日は南岳、キレット、北穂高、涸沢岳、奥穂高岳、天狗の科尔と縦走し、何らかの理由で滑

落して腕を骨折し、14時45分に119番通報をした。

これを知って、あまりにも早いスピードで登山をされる方だと思った。初日の上高地から槍の肩まで、休憩を含まないコースタイムは9時間15分。槍ヶ岳を往復して1時間。翌26日の休憩を含まないコースタイムは、槍の肩から、通報箇所の天狗の科尔まで11時間30分。骨折して119番通報したのが14時45分。

コースタイムと通報時刻を見比べると、とにかく早く歩くか、あるいは走る人だと思った。いずれにしてもザックを軽くし、槍ヶ岳山荘から西穂山荘へと急いだのだと推察された。またこの日も雨が降って登山には良い条件ではなかった。

早いスピードと雨が、この事故の要因だった可能性が高い。事故が起きて、ケガをしても、救助が来るまで持ちこたえれば、命を亡くさなかった。その持ちこたえる装備がザックにあれば良かった、残念な事だ。

天狗の科尔に一番近い山小屋は、岳沢ヒュッテ。そこから天狗の科尔までは、健脚であれば3時間か。当日、岳沢小屋には長野県警と常駐隊の隊員4名ほどがいた。その隊員は前穂高岳の重太郎新道で遭難事故があり、けが人を搬送していた。15時45分、岐阜県警から連絡が入り、ビバーク装備をもって、天狗の科尔まで登ってくれないかとの依頼だったが、二つの救助を並行するより、前穂のけが人を下すことに専念するとなった。

そして翌日、天狗沢から救助に科尔まで登り、稜線から岐阜県側へ200m下って、現場に到着するも心肺停止していた。この日も雨が降り視界の効かない状況だった。本人は救助要請したときは、携帯電話を操作できたので、片腕骨折と思われるが、見つかったときは、両腕骨折となっていた。

本人は生きるつもりで努力したと思う。骨折しても悪天に耐えうる装備があれば、そこで一晩を過ごすことにしたと思うが、それがなければ、最寄りの山小屋へ向かうしかない。骨折した状況で、それをかばいながら西穂山荘へと向かったか、でも奥穂高岳から西穂山荘までのコースは、一般登山ルートでは国内最難関かつ雨では、それも無理だったと推察される。残念ながら、再度の滑落によって、両腕骨折となり、なすすべもなく低体温症になってしまった。

厳しい自然に対しては、最善の情報収集とその情報による対応をすればと思う。

最近、千葉支部長兼本部理事の松田宏也さんと夕食をとる機会があった。その時に質問をした。「なぜ、ミニヤコンカで、死ななかったのか」この質問は、長年考えていたことだった。私は死ななかった理由は、私なりに答えを持っていた。それは現地在乾燥していたこと、風が吹かなかったこと、体が濡れてなかったことなどなど。松田さんの答えは、いくつかあったが、一番は「生きようと信念があった」だった。また当時の羽毛服は、保温能力は素晴らしかったと述べた。

山の事故の法的責任(その2)

登山の指針と紛争予防のために(解説)

安部可人(会友3)

(登山道の管理責任)「登山道で事故が起きた場合、管理者の損害賠償責任が生じる。登山道、橋、ハシゴ、クサリ場などの事故です」結論としては、皆さんは引き下がります。訴訟にはお金と時間がかかり、補償金をもらうのは難しい。槍・穂高に行かれる方、ヤブ山愛好者などは、特に読んで理解してほしい。登山道とは何か、基本を知れば心が豊かになります。

(自然状態の道)「やぶ、沢、ガレ場、雪渓などの踏跡であり、定着すれば”道”になる。剣岳の三の窓、長次郎雪渓、槍ヶ岳北鎌尾根の登山道などがこれに該当する。これらのルートで事故が起きてても管理責任は生じない。今流行のバリエーションルートもそうです」雲取山周辺の山域が、バリエーションルート(変化に富んだ未知のルートだろう)に人気があり、道迷い遭難が多発した、と遭難記録で読んだ。コギコギクラブも該当します。

「北鎌は、経済的利益の対象外だから自然状態のルートを維持している」反して、槍ヶ岳が整備されたのは、経済的利益の対象とされたのだ(山小屋は大繁盛、もろもろの税収で自治体が潤う)。開発反対の意見は、無視された」、残念です。皆さんはご利益に甘んじています。槍登頂自慢にはなりません。

(1) **一般の登山道**「西穂高・奥穂高間の縦走路は整備が不十分な登山道である(だから自治体の責任はない)。槍ヶ岳は、クサリ、ハシゴが整備されて、責任が生じた。登山者は、それらを全面的に信用し

て登るので、その信頼を保護する必要がある。ただし、管理者があいまいなため(逃げ道)管理責任が生じにくいのが実情である。新穂高・槍の間の登山道には沢を渡る個所が何か所もあり、増水時の死亡事故が過去に何件も起きている。平時は誰でも簡単に河原を歩いて渡ることができ(通過したら思いだして下さい)、橋のない登山道として長年通用しているので(橋はいらない)、設置して崩壊したら、設置者は責任が生じる」

(2) **遊歩道**「通常、国や自治体が設置するので、管理者が明確です。利用者から期待される安全性の程度が高いので、管理責任が生じやすい。一般に、遊歩道利用者は落石の危険性とかを承認してない(危険性が分からない)。(裁判例)「吊橋のワイアが折損して転落死した、地盤沈下で負傷した。それらの事故は管理責任が認定された。」自己責任”の看板を設置し、利用者にヘルメットを着用させていたが、責任が認定された」「柵はあるが、管理されておらず、被害者の過失による転落死とされた裁判もある。当事者は、それらが管理されない廃墟に近い営造物だと(常識的に)認識すべきである。立山の湯だまりのガス中毒死も遊歩道外だから、過失になる」

(私見) 県民の森の”おしどり渓谷”遊歩道は、もはや事故の起こらぬうちに閉鎖すべきだとおもう。ネット防護壁に県費を浪費して、急崖の間の溪流沿いに造成したのは、無理がある。通行禁止区間もあり落石も怖く、現在私は利用をやめた。一般に、大分人は歩くのが苦手、遊歩道は活用されていない、荒れている。腰に悪そうだが、なぜかコンクリ道を散歩している

個人山行報告

八方ヶ岳(熊本県)

カニのハサミ岩

寺道 和代 (会友 262)

日時: 2023年11月26日(日)

場所: 八方ヶ岳 カニのハサミ岩

登攀: お茶会ルート(ノーマル・スーパー)、ショートルート(ひよこ岩・マロン岩)

2021年4月に、熊本県にある八方ヶ岳(やほうがたけ/山鹿市菊鹿町)にある「カニのハサミ岩」がフリークライミングのエリアとして公開された。また、比較的新しい岩場である。今回、日本山岳会ユース2024の会場候補(案)が、この『カニのハサミ岩』であること、広島支部の大田さん他3名の方とお逢いしたいとの、皆様の思いもあり、本日、決行となった。

11月の初旬、日本山岳会ユース交流会in岐阜に、東九州支部からは支部長他2名の精鋭達が大分から10時間かけて参加し、広島支部の方々との絆が繋がっている。本日、広島支部の大田さん達との合流も無事叶って、しばし歓談。



昨日はお茶会ルートに制覇、本日はショートコース堪能した後、午後からは広島に帰省されるとのこと。短い間交流であったが、支部同士のつながりの輪が広がっていく瞬間に立ち会う事ができた。

さて、本日の東九州支部のクライマーは6名。午前中はお茶会ルートに取り組む。先鋭部の田所氏、松尾氏はお茶会ルートスーパーへ、安東支部長他3名はお茶会ルートノーマルへ、レッツチャレンジ!



笠井先輩がトップ、上野氏、寺道、監督の安東支部長の順で登攀である。

1P目 5.7 14m、2P目 5.8 23m、3P目 5.7 15m セカンドで登っていく。笠井先輩が『上にいる!』安心感で、前回よりも楽しんで登ることができた。3P登りあがると、テラスがあり絶

景である。開拓者の方が『ここでお茶会したい』と言われた事からお茶会テラスと名前がついたとのこと。

4P Ⅲ級 100m 5m懸垂下降+稜線歩き、5P Ⅳ級、45m ゆるいスラブをトップで行かせていただいた。しっかり足はかかるのに、滑りそうで、落ちそうになる。いやいや、落ちてはなるものかとの思いでスラブを登り切った。

その後、ロープアップして、フォローの確保を行うのだが、自宅で何度も手順操作を確認していたにもかかわらず、実際の現場では、モタモタして、どうしても時間がかかってしまった。反省しつつ、今後の課題である。

午後からは、広島支部の方と再会を約束し見送った後、6人でショートコース(ひよこ岩、マロン岩)にチャレンジ。頬に当たる風が冷たく感じる時間まで、楽しんだ。

私は前回、無謀にもお茶会ルートスーパーにチャレンジし、迷惑をかけ失敗している。今回は、何を使っても登りきらなければと、スカイフック、あぶみ、タイプロック、マイクロトラクションを持参していたが、素晴らしい先輩方のサポートのおかげで、特殊な装具は使わずに登ることができた。

初めて登る場所なのに、『私がトップ行きます。』と、先頭に立つ笠井先輩の心意気とテキパキとした姿が素敵で、私は始終釘付けであった。私も近い将来、『トップは私が行きます。』と先輩のように言えるようになりたいと思った。

私の周りには、素敵な仲間と素晴らしい先輩方が沢山いて、大好きなマルチピッチができる今の環境を、とてもありがたいと感謝した1日でした。

外岩はリスクが伴います。だけど、岩の形は千差万別で、基本的に、登り方は自由なんです。『どこに足置くの?』『どこに手がかけられるの?』と心の声聞きながら、自然の岩に触れるのは格別な瞬間です。そして、登り上がり、岩に立った時の充実感は何物にも代え難い。とにかく気持ちいい!! 景色は最高! これ以上、心が躍るものは無い、だから外岩(マルチ)は、辞められない。

戸惑っている皆様、一緒に行きませんか。

〈参加者〉安東、田所、笠井、上野、松尾、寺道

個人山行報告

槍ヶ岳表銀座縦走

川村 寅 斉(会友 264)

令和5年9月29日～10月2日

「槍ヶ岳に行こう」最初に思い立った2019年以降コロナ騒動で行けず。2023年は銀婚式。行くなら今年しかないか。4年越しで実現した槍ヶ岳遠征。当初は槍穂高の大キレット縦走を考えていたが、相方の体力とテ泊装備、天気予報などの不安材料を毎日毎日何度も何度も熟慮に熟慮を重ねて3泊4日表銀座テ泊縦走に決定。縦走順路も槍ヶ岳登頂が少しでも好天になるよう直前まで天気予報を毎日毎日何度も何度も見て熟慮に熟慮を重ねて、上高地スタート、中房温泉ゴールに決めた。

【9月28日 松本へ】

夜勤明けの相方を拾って、そのまま大分駅へ。今回は銀婚山行なので贅沢に公共交通機関を利用。ビールを飲みながら約7時間で松本駅へ。松本駅前のホテルで前泊。

【9月29日 上高地散策】

始発で上高地へ向かう。バスターミナルにはそれほど人はいなかったが、河童橋あたりから急に増えてきた。梓川、徳澤園、横尾山荘で好天の初上高地を満喫。アップダウンのない遊歩道をひたすら歩き、初日の幕営地槍沢ロッジのテ泊場、ババ平へ。

【9月30日 槍ヶ岳山頂へ】

槍ヶ岳山頂へ。槍の穂先が見えてから長い。わくわくが止まらない。風は強いが好天。混雑もなくゆっくり山頂を堪能。山荘で500円カップラーメンを食した後、西岳へ向かう。槍ヶ岳を後にした直後からどんどん雲があつまり、すぐに槍は見えなくなった。槍ヶ岳から西岳への縦走路が今回いちばんしんどかったかも。長く大きいアップダウンと重装備で体力を削られながら、なんとか予定どおりにヒュッテ西岳で幕営。設営直後に風雨が強くなったので早々に就寝。

【10月1日 大天井岳、燕山荘へ】

雨と爆風でほとんど寝られず。朝になっても天候は回復しない。テントの中でじっと待つ。予定より3時間遅れの9時前に出発。展望は期待できないので西岳のピークはスルーして大天井岳へ。

大天井岳に向かう最中に天気は回復。気持ちの良い「これこれ」な感じの縦走路を歩く。紅葉はいい感じ？よくわからなかった。



大天荘で昼食。芋煮うどん(1100円)がほんとに美味かった。これを食べに大天井岳リピートしたくなる。

最後の幕営地、北アルプス巨大アミューズメントパーク燕山荘に到着。山の静寂も孤独もここでは無縁。喧噪と雑踏。少しがっかり。テ泊場も騒がしいが早々に就寝。翌朝の燕岳朝駆けに備える。

この日燕山荘手前で雷鳥に会えた。はじめまして。ありがとう。



【10月2日 燕岳 下山】

5時30分燕岳山頂。槍はバツグン。ご来光も良かった。最後の朝を楽しんで今回の縦走が終わり。中房温泉まで降って、入浴そしてビールでフィニッシュ。大分へ帰る。

川村 寅 斉、川村 美 枝 子(会友 265)

【縦走を終えて】

●この縦走路は事前の情報通り槍ヶ岳のエントリーコースとして全体的に難易度は低く、危険な個

所はなかった。テープはほとんどないが、ルートロストをするようなところはない。梯子や鎖もがっちり固定されていた。祖母傾縦走路や大崩山のほうが峻嶜で難易度は高い。

●燕山荘は表銀座の入り口だけに大きい人が多くおちつかない。槍ヶ岳山荘も主役なので当然多い。ヒュッテ西岳はほかの山荘と同じ金額であればちょっと... このコースで泊まるなら大天荘がいい。常念岳ピストンのベースにもなるし、大天井岳も芋煮うどんも気に入った。

●「北アルプス観光山行」今回の縦走を振り返るとそう思う。縦走路や山荘などの登山インフラが充実し、多くの人で賑わうコースを歩いた。全体的にコンディションも良く、憧れの槍ヶ岳を登頂し、充実の銀婚山行だった。ただ分かっていたことだが、表銀座縦走路は人が多すぎる。自宅のある長湯の人口よりも多い人が集まっている。山で人に疲れたと思うときもあった。とはいえ自分はまだ北アルプスのほんの一部をお触りしただけの北アルプスピギナー。大キレット、ジャンダルム、穂高連峰、常念岳、剣岳、高名な山々がたくさんある。こんどは、もう少し静かなコースを歩きたいと思う。支部長教えてください。表銀座は山荘泊還暦山行でまた歩こう。

さけてスギ林を登ると良い。約30分で稜線上の登りとなり、道はよくなる。スギ林の中の道は続き、しばらく登るとやがて左手上に主稜線が近くなる。道は斜めになおも西へ稜線の下を行っているので、このあたりで道を選別して直登していき、主稜線に着くと、来た方向とは逆に東にたどれば東西に長い山頂部で、東に行くと高度が下がり始める手前の、やや低い北の緩斜面に3等三角点がある。
参考タイム：市道→30分→稜線→20分→三角点
山頂 地形図：25000分のI(英彦山)

打田

釜ヶ瀬山から東に、複雑に湾曲しながら山国川の小瀬戸の谷へと続く稜線上のほぼ中央にある高台の上で、まわりはほとんど植林地で、三角点山頂もヒノキ林である。

国道496号の大曲の手前から対岸に、草本鉾山跡に向かって橋を渡るとすぐに右折して右岸に行く。1.5kmで小瀬戸橋を渡ると左に分かれる林道がありこれを上る。次第に荒れてきて約1kmでやや広い川原で車は行き止まりとなる。飛び石渡りで川を渡るとその先は荒れ果てた林道がさらに続いている。半ば崩壊した林道を進むと15分余りで左手の対岸に分岐する小谷があり古い車道の跡がみられる。飛び石伝いで沢を超え、対岸の小谷に入り、まっすぐに小谷を遡行して20分ほどで谷が浅くなったらずちに右手上の稜線に取り付き、照葉樹の急斜面をよじ登り、あとは小稜線の直登に次ぐ直登60分で、平らな場所に着く。そこは主稜線から北に

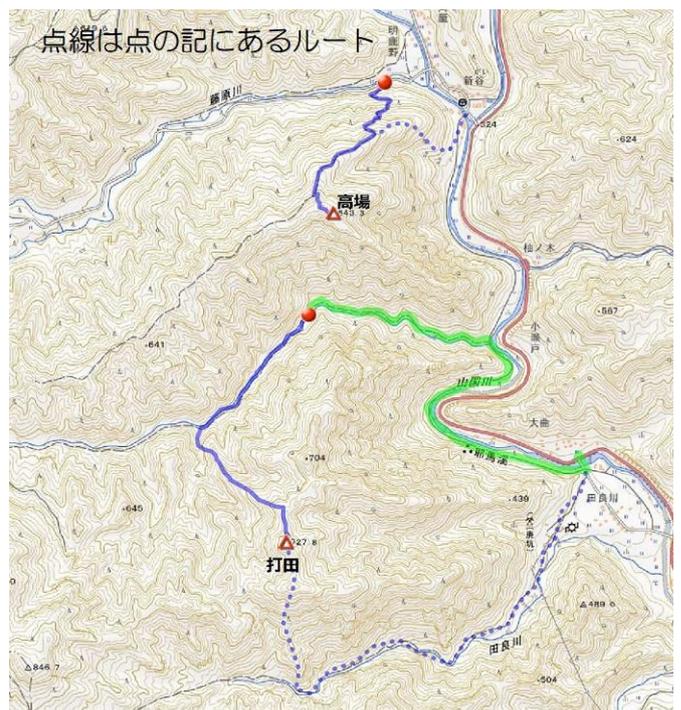
私の無名山ガイドブック (N091)
高場(643.3m)・打田(727.8m)
飯田 勝之 (10912)

今回も中津市山国町の奥耶馬溪の三角点山頂へのルートを紹介しよう。

高場

中央分水嶺にあるガラメキ峠の東にある小ピークから、北東に派生する稜線が槻木の山国川の合流点に落ち込む直前の小ピークである。

山国町槻木から藤原に向けて入る車道の藤原橋を渡り、140mほど行ったところかに左(南)に斜めに登る作業道が登山口に良い。草に被われた作業道を丁寧にたどりながら登っていくと、スギ林の急斜面の中をジグザグ登りで、深くえぐれた道は倒木が道をふさぐところが多いので、そう言うところは



分派した稜線の肩にあたるところで、その端に4等三角点がある。

参考タイム：車止め→15分→渡渉→60分→三角点山頂 地形図：25000分のI(英彦山)

お知らせコーナー

支部からの報告(会務報告)

■支部会議開催報告

第4回役員会 9月1日(金) 大分市西部公民館(ルームと兼ねる)

- 1.第20回青少年体験登山大会について
- 2.登山教室開催について
- 3.宮崎ウエストン祭参加について
- 4.本部ユースクライミング参加について
- 5.忘年登山および、忘年会について
- 6.古道調査(本部報告)について
- 7.その他

・支部ルーム開催状況

10月6日(金) 大分市西部公民館 (2名)
11月10日(金) 大分市西部公民館 (2名)
12月1日(金) 大分市西部公民館 (中止)
1月5日(金) 大分市西部公民館 (中止)

・支部ルーム開催予定

2月2日(金) 大分市西部公民館 18:30~
3月1日(金) 大分市西部公民館 18:30~
4月5日(金) 大分市西部公民館 18:30~

月例山行のご案内

1月例山行：鞍岳(1,117.9m)

日時……1月21日(日)
出発……1月21日(日)
集合場所……鹿島正隆
参加申し込み期限……1月12日(金)
担当……鹿島正隆
参加申し込み……下記メールにお願いします!

macpapa@kcf.biglobe.ne.jp

※地図 鞍岳 1/25,000

2月例山行：天山(1,046.1m)

日時……2月11日(日)
集合場所……未定

参加申し込み期限……未定

担当……鹿島正隆

下記メールにお願いします!

macpapa@kcf.biglobe.ne.jp

※対象地図：古湯・小城 S=1/25000

3月例山行：黒岳(1,587m)

日時……3月17日(日)
集合場所……白水鉱泉駐車場 午前8時
参加申し込み期限……3月7日まで
担当……笠井美世
参加申し込み 090-556-7108 または
mmykasai@nifty.com

※対象地図：大船山 S=1/25000

4月例山行：五葉岳(1,589.6m)

日時……4月7日(日)
出発……4月7日(日)
集合場所……未定
参加申し込み期限……3月29日(金)
担当……鹿島正隆
下記メールにお願いします!
macpapa@kcf.biglobe.ne.jp
※対象地図：見立 S=1/25000

熊野古道の集中山行のご案内

日本山岳会125周年記念事業の一環として行われている山岳古道調査イベントとして行われる募集がありましたのでご案内いたします。

参加者希望者は3月から4月15日までに本部山行委員会に申込のこと。ただし、支部パーティーでの参加も受付ますので、希望者は支部事務局まで。詳しくは下記のURLをご覧ください
https://jac1.or.jp/about/iinkai/120kinen/old_road/2023091627356.html

全国支部懇談会の参加募集

春の湘南平・三浦アルプス・鎌倉を楽しみながら全国の会員との交流を楽しみませんか
期日 5月25日(土)~26日(日)
主管 神奈川支部
場所 グランドホテル神奈中・平塚(平塚市)
交流登山 ①三浦アルプス ②鎌倉大仏ハイキング

参加費 20,000円(一泊二食・弁当代込み)
 参加申し込み期限 2月15日(木)
 詳細及び参加希望者等は支部事務局長まで問い合わせ・申し込み下さい。(支部ごとにまとめて申し込みとなります)

支部報原稿執筆に関するお願い

山行報告だけでなく、随筆や詩、短歌、俳句その他の小品など期待します。なお、投稿者や報告記事記載者は下記のことにご留意してください。

- ① 原稿締め切り：発行月(1, 4, 7, 10月)の前月末までに送ってください
- ② データーは、文章は表題・本文ともワードの**ペタ打ち**で(支部報形式の二段組や飾り文字など不可)、写真や映像はJPGで説明付きを(但し写真にキャンプションの挿入は不可)、図等はワードかエクセルまたはJPGで
- ③ 文章は1,200字以内程度で、もしそれい以上も1,500字を超えないように
- ④ 写真や映像が複数ある場合は掲載優先順位を記載のこと(複数すべて掲載できないこともある)
- ⑤ 送付先は当面の間は yamatomoki@ari.bbig.jp まで (編集担当より)

新人会員の紹介

- ・会 員 清田晃生 会員番号 17137
 - ・準会員 甲斐善江 会員番号 A-0527
 - ・会 友 土谷美穂 会友番号 286
 - ・会 友 小西時幸 会友番号 287
- 以上、9月の役員会で紹介承認された方々です。宜しくお願いします。

後記

- ・年次晩餐会の夜は川崎に住む娘の家に泊まり、翌日は孫(小5)を連れて晩餐会記念親睦登山の天覧山に行きましたが、飯能駅到着が遅れ、皆さんはもうとっくに出発した後でした。二人で追いかけて天覧山まで登りましたが、そこで多峯主山への縦走はやめて駅に引き返しました。
- ・理由は開催中の秩父の夜祭に行くためでした。40年近く昔のある上京した機会、それはちょうど秩父の夜祭の日でしたが、秩父に住む友人に招かれて秩父に行き、山車(笠鉾・屋台)を見た思い出がありますが、コロナで3年間中止になっていた山車の曳き回しなどが再開されるとのことで、それを孫に見せようと思ったからです。
- ・京都祇園祭、飛騨高山祭りと一緒に日本三大祭りと言われるこの祭りは12月1日から6日間行われ、大祭の3日の夜が最大のクライマックスで、6台の山車が練り歩くさまは荘厳と言えます。
- ・ただ、一応それを見越して準備し、覚悟はしていたとはいえ、それはそれは、とんでもない人混みと、底冷えのする秩父盆地のとんでもない夜の冷え込みと、帰りの電車のとんでもない込み具合には閉口しましたが、孫は興奮しきりでした。(K・I)

公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第104号

2024年(令和6年)1月25日発行

発行者 安東桂三

編集者 飯田勝之

発行所 事務局

〒879-1113 大分市中判田15-55 阿南方

TEL・FAX 097-797-7120

E-mail beca5844@oct-net.ne.jp



山溪

西日本最大級の品揃え!
since 1968
登山・キャンプ専門店
大分市生石1-3-1

GO ミ ナ サンサンサン
TEL 537-3333
FAX 537-3388

- 西大分「交番」前高崎団地入り口
- JR西大分駅より歩いて6分
- 10時~19時30分 ●火曜定休日

1968年創業の山溪が あなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の
110番
開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩に痛い。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。